

移動展

幡多地域



坂本遺跡出土



具同中山遺跡群出土

の遺跡展

2015 1/17(土)～2/1(日)



具同中山遺跡群出土



西ノ谷遺跡出土



具同中山遺跡群出土

会場 四万十市立中央公民館

開館時間 8:30～17:00
休館日 無し
入館料 無料

「移動展」ワークショップ

日時 1月17日(土) 9:30～12:00
会場 四万十市立中央公民館 約30名

主催 高知県立埋蔵文化財センター
(公益財団法人 高知県文化財団)

〒783-0006 高知県南国市篠原 1437-1
TEL 088-864-0671 FAX 088-864-1423

「移動展」講演会—遺跡から見る西南四国の地域性の芽生え—

日時 1月17日(土) 14:00～16:00
会場 四万十市立中央公民館 約100名
講師 愛媛県歴史文化博物館 兵頭勲氏
参加料 ワークショップ、講演会とも無料

共催 四万十市教育委員会



文蔵くん まいちゃん

旧石器時代

旧石器時代は今から約1万3千年以上前で、土器が発明される以前を言います。高知県では約30ヶ所の遺跡が確認されており、半数以上が幡多地域で確認されています。これは地域で積極的に遺跡を探索した地元の研究者木村剛朗^{きむらたけお}氏の存在によるところです。今回の展示では平野遺跡の約2万5千年前のナイフ形石器と約1万3千年前の細石刃核^{さいせきじんかく}を展示しており、四万十市では約2万5千年前に人々の歴史が始まったことがわかります。

縄文時代

縄文時代は約1万3千年前から2800年前までの時期で縄文土器が使われ、農耕が始まる以前の豊かな自然の恵を利用した狩猟・採取によって生活していた時代です。幡多地域では宿毛貝塚をはじめ多くの遺跡が確認されており、高知県の考古学史に残る遺跡も少なくありません。四万十市で最も古い遺跡は旧西土佐村^{えかわなか}の江川中畝遺跡^せで約1万3千年前、草創期^{そうそう}と考えられる尖頭器^{せんとうき}が出土しています。



伊吹町式土器出土状況

四万十川流域では旧十和村^{とうわ}で同じく草創期の十川駄場崎遺跡^{そうそう とうかわだばさき}が確認されています。縄文時代前期から中期の遺跡は高知県では非常に少なく幡多地域も例外では有りません。縄文時代後期になると遺跡は増加し平野部などの低地に遺跡が営まれ始めます。この時期の遺跡として船戸遺跡^{いぶきちゆう}があげられます。船戸遺跡では九州の後期土器である西平式^{にしびら}や西平式の四国版である伊吹町式土器が多く出土しています。晩期では中村貝塚^{なかむらかいづか}、入田遺跡^{じゅうた}が有名ですが具同中山遺跡群^{ぐどうなかやま}からも晩期土器^{ばん}が出土しており、より低地に集落が営まれたことがわかります。

弥生時代

弥生時代は約2800年前に始まり、水稻農耕が始まった時代です。幡多地域では入田遺跡から縄文時代の終わりの晩期土器と弥生時代前期の遠賀川式土器^{おんががわ}と一緒に出土しています。弥生時代の成立に関わる遺跡として考古学史に残る遺跡です。



弥生前期土器出土状況

西ノ谷遺跡^{にし たに}では前期後半の土器と木製鋤^{くわ}が出土しています。特に九州の下城式^{しもじょう}の甕と瀬戸内の逆L字状口縁^{かめ}の甕、南四国の地域性の強い甕と一緒に出土していることが注目されます。中期では瀬戸

内地域で多くみられ高知県中央部でも出土例の多い凹線文土器^{おうせんもん}の出土例が少なく、逆に少量ですが九州の須玖式土器^{すぐ こつ か}が古津賀遺跡群^{なかつじ}から出土しています。後期になると中筋川の河川祭祀^{せんさいし}が開始されます。

古墳時代

地域の豪族が力を持ち、大和朝廷を中心とする国家が成立した時代です。幡多地域の古墳時代では高知県唯一の前方後円墳の可能性のある平田曾我山古墳が有名です。同じく中筋川沿いには高岡山古墳群があり中筋川流域の両者は首長の墳墓と考えられています。集落跡は確認されていませんが中筋川左岸の具同や、後川左岸の古津賀では河川に関わる祭りが行われた跡が確認されています。特に中筋川沿いでは多くの発掘調査が行われ、全国的にも有数の河川祭祀遺跡であることが確認され、多量の土器や祭祀に関わる土製品、滑石製祭祀品が出土しています。



河川祭祀跡遺物出土状況
滑石製祭祀品が出土

古代

奈良・平安時代の幡多地域は、平安時代の「和名抄」によると土佐七郡の内の「幡多郡」となっており、牧田、鯨野、大方、山田、宇和の五郷があったといわれています。このうち宇和郷は四万十川左岸、山田郷は四万十川以西の中筋川流域の地域と推定されています。中筋川右岸の風指遺跡では近畿地方で作られた緑釉陶器や黒色土器等が出土しており役所的性格を持つ遺跡と考えられています。また対岸の具同中山遺跡群からは役人が使った帯飾りの巡方や丸軻が出土しており役人の存在がうかがえ、具同地区が山田郷の中心的部分であったことが考えられます。また、幡多地域の中でもこの時期は具同が中枢的位置にあったと考えられます。



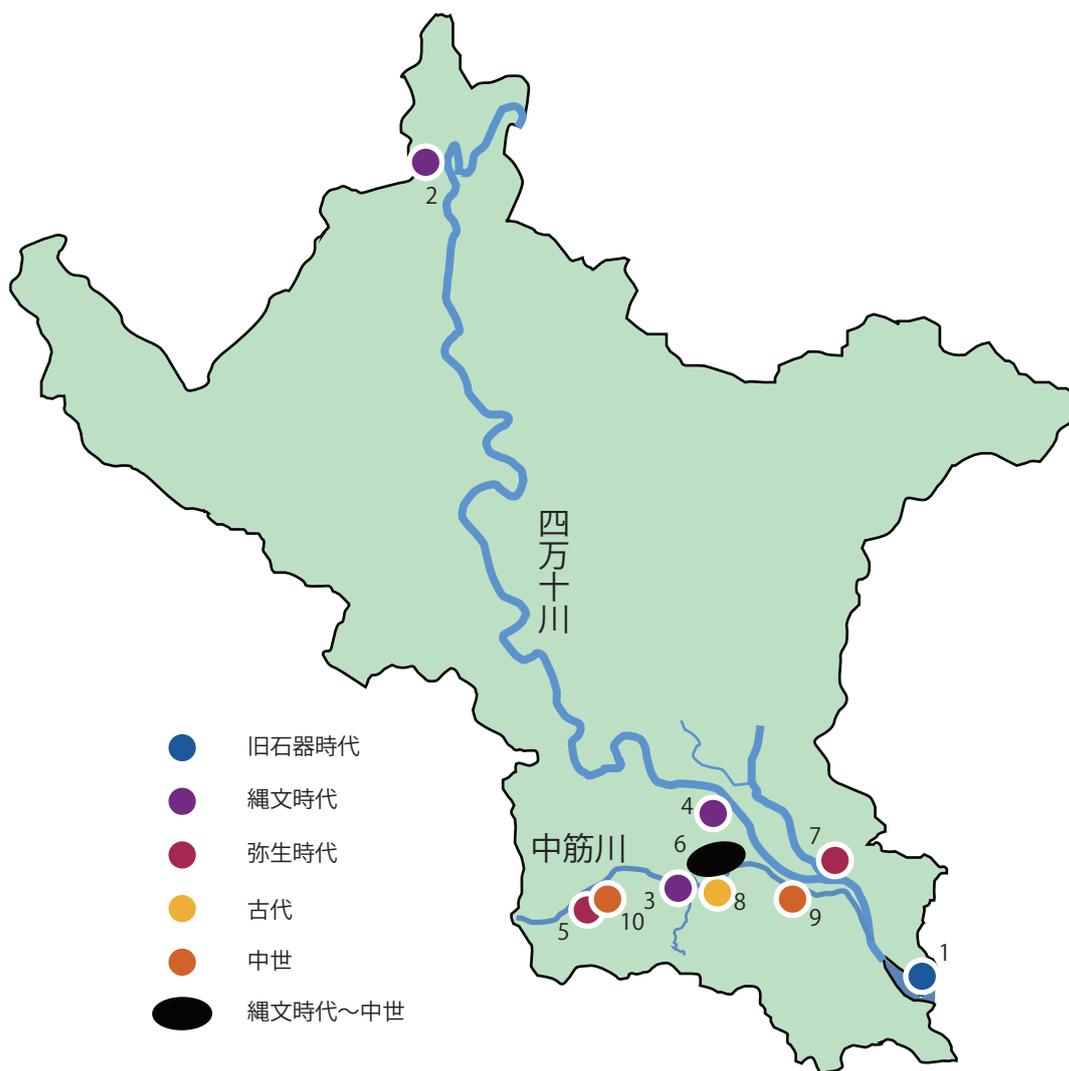
緑釉陶器 皿

中世

中世、幡多地域で最も大きな出来事は一条氏が京都から応仁の乱を避け、荘園であった中村へ下向したことです。一条氏はその後、戦国大名化し高知県の中世を代表する存在となります。一条氏のもと旧中村地区は幡多地域の中心となりました。具同中山遺跡群や幡多地域の遺跡で特徴的なこととして、貿易によってもたらされた瓦器や青磁や青花などが多く出土することが挙げられます。これは一条氏が積極的に貿易を行っていたことを示していると考えられます。また船戸遺跡からは川舟の碇、坂本遺跡では舟形木製品等が出土しており活発な交易の様子がうかがえます。坂本遺跡は四万十川と中筋川が合流する地点、中世寺院で一条氏と関係が深い香山寺の山下に位置しており、里坊的存在と考えられ、瓦葺きの建物が建っていたことが、この時期としては全国的にも出土例が少ない瓦窯跡の存在からうかがえます。これらから中世寺院と一条氏が密接に結びつくとともに、両者が貿易にも深く関係していたことがわかります。



瓦窯跡完掘状況



展示した遺跡の位置図

* 複数の時代にわたる遺跡は展示した遺物の時代になっています。

地図No.	遺跡名	時期	所在地
1	平野遺跡	旧石器時代	四万十市鍋島平野字茶円
2	江川中畝遺跡	縄文時代草創期	四万十市西土佐江川中畝
3	船戸遺跡	縄文時代後期	四万十市森沢
4	入田遺跡	縄文時代晩期～弥生時代前期	四万十市入田
5	西ノ谷遺跡	弥生時代前期	四万十市江ノ村西ノ谷
6	具同中山遺跡群	縄文時代～中世	四万十市具同
7	古津賀遺跡群	弥生時代中期	四万十市古津賀
8	風指遺跡	古代	四万十市森沢字風指
9	坂本遺跡	中世	四万十市坂本字ユスノ木
10	ハナノシロ城跡	中世	四万十市江ノ村

主催 高知県立埋蔵文化財センター（公益財団法人 高知県文化財団）

共催 四万十市教育委員会

協力 高知県立歴史民俗資料館